

●●●●● 学校全体で取り組む道徳教育の充実を ●●●●●

教育庁指導部 主任指導主事 重山 直毅

小学校では昨年度から、中学校では今年度から、「特別の教科 道徳」が全面実施となりました。各学校では、様々な不安や悩みもある中、校内研究等を通して、一単位時間の道徳科の指導の在り方や指導方法の工夫等について理解を深め、授業の改善・充実が図られていることと思います。

学習指導要領総則には、「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童（中学校は「生徒」）の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと」と示されています。子供たちの豊かな心を着実に養うためには、道徳科の指導の充実はもちろんのこと、各教科をはじめとするあらゆる教育活動において、意図的・計画的に道徳教育に取り組んでいくことが大切です。道徳教育の全体計画や「全体計画の別葉」を効果的に活用しながら、学校全体で取り組む道徳教育を充実させていただきたいと考えています。

義務教育指導課では、本年3月に、道徳教育における効果的なカリキュラム・マネジメントの実現を図るための手引きとして、リーフレット「Do - NAVI」を作成し、都内公立小・中学校等の全ての先生方に配布しました。全ての先生方が協力し、学校全体で子供たちの道徳性を育てていくために、本リーフレットをぜひ御活用ください。また、本年10月以降に、東京都道徳教育モデル校の研究発表会や、優れた授業実践を公開する「特別の教科 道徳」授業力向上セミナーなども開催します。各学校における道徳教育の更なる充実に向け、多くの先生方の御参加をお待ちしています。

掲載内容

- 巻頭言「学校全体で取り組む道徳教育の充実を」
- 「特別の教科 道徳」授業改善のポイント
- 東京都「特別の教科 道徳」カンファレンスを開催
- 道徳教育の先進的な実践を公開します！
- 「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善のポイント（国語編）

東京都教育委員会のホームページ「学校教育」内の「指導資料・報告書等」のページには、各学校が指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図るための諸資料を掲載しており、メール・マガジン「スクラム」のバックナンバーも、こちらに掲載しています。

ぜひ御覧いただき、参考にいただければと思います。

（東京都教育委員会ホームページアドレス <http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

★ 東京都教育委員会の取組に関わる先進情報等については、こちらでも御覧ください。



東京都教育委員会の公式アカウント
(@tocho_kyoiku)

「特別の教科 道徳」授業改善のポイント

学習指導要領には、「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）の目標が次のように示されています。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（中学校：「物事を広い視野から」）多面的・多角的に考え、自己の（中学校：「人間としての」）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の授業で育てる「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」とは、どのようなものでしょうか。

こんなとき、どうすることが本当の思いやりでしょうか？ それはなぜでしょうか？

なぜ「きまり」があるのでしょうか？ 「きまり」を守らないとどうなるのでしょうか？

道徳的判断力

それぞれの場面において
善悪を判断する能力

道徳的心情

善を行うことを喜び、
悪を憎む感情

道徳科の 授業で 育てる

道徳的実践意欲

道徳的価値を実現しよう
とする意志の働き

道徳的態度

道徳的行動への身構え

ではこれから、どのような自分で友達に接していきますか？ それはなぜですか？

この場面を教室で演じてみましょう。演じてみて気付いたことを話し合ってみましょう。

道徳科の授業で「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」のうちの何に重点を置くかによって、教材の扱いや発問、学習活動が変わってきます。授業の展開を考える際には、子供たちの実態などに応じて、何に重点を置くかを明確にし、そのねらいに沿った工夫を取り入れることが大切です。



東京都「特別の教科 道徳」カンファレンスを開催

令和元年7月29日に、都内公立小・中学校等の道徳教育推進のリーダーとしての役割が期待される先生方217名を対象に、東京都「特別の教科 道徳」カンファレンスを開催しました。講師の先生方からの講演、事例発表の後、学校全体で取り組む道徳教育の充実に向けて、どのようなことに取り組んでいるのかについて参加者同士で協議を行いました。



【参加者アンケートより】

- ◆ 板書を写真で保存したり、授業のためにつくった教材を学校の財産として共有したりするなど、すぐに取り組める実践を紹介していただけて勉強になった。早速取り組もうと思う。
- ◆ まずは重点項目について教員の共通理解を図ることから始めていきたい。教員同士で授業を参観し合い、発問について意見を述べ合うなど、できることから始めていき、全教員が協力して道徳教育に取り組んでいける環境をつくっていききたいと思う。

道徳教育の先進的な実践を公開します！

- 子供たちの心を育む効果的な方法とは？
- 道徳の授業をもっと充実させたい！
- 学校全体で取り組む道徳教育を推進したい！
- 道徳の校内研究を充実させたい！
- 特別活動と道徳とは何が一緒に何が違うの？
- 「別葉」とはどうやってつくればいいのか？
- どのような授業を行えば、評価につながるの？
- 推進教師として何から取り組めばいいのか？

東京都道徳教育モデル校の取組をぜひ参考にしてください！

「特別の教科 道徳」授業力向上セミナーに御参加ください！

東京都道徳教育モデル校 研究発表会（小学校）

- 【日 時】 令和元年11月1日（金） 町田市立小山ヶ丘小学校
令和2年1月23日（木） 渋谷区立神南小学校
令和2年2月15日（土） 荒川区立第四峡田小学校
※ 開始時刻の詳細等については、2次案内にてお知らせいたします。

東京都道徳教育モデル校 中間報告会（中学校）

- 【日 時】 令和元年11月5日（火）午後2時から午後4時30分まで
【会 場】 東京都立多摩図書館 セミナールーム
【発表校】 新宿区立四谷中学校 豊島区立西池袋中学校 府中市立府中第九中学校

「東京都道徳教育モデル校」は、学校全体で取り組む道徳教育の効果的な実践事例（カリキュラム・モデル*）の開発を行っています。平成30年度からの小学校3校に加え、令和元年度より新たに中学校3校をモデル校として指定しています。今年度は研究発表会（小学校）と中間報告会（中学校）を実施します。お申込みの詳細につきましては、**令和元年8月下旬の2次案内にてお知らせする予定です。**

*例：複数単位時間の授業を組み合わせた道徳科の単元化や、他教科や特別活動等と関連付けた道徳教育等

「特別の教科 道徳」授業力向上セミナー（小学校）

- 【開催日】 令和元年10月から12月まで 6回開催
【会 場】 都内公立小学校（東京都道徳教育推進委員の所属校）

「『特別の教科 道徳』授業力向上セミナー」では、東京都道徳教育推進委員の先生方による道徳科の授業を公開するとともに、道徳教育の充実に向けた協議を行います。道徳科の指導の充実や、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて取り組む道徳教育の推進について、理解を深め、実践につなげることを目的としたセミナーです。お申込みの詳細につきましては、**令和元年8月下旬に各学校にお知らせする予定です。**

※どちらも教員向けの内容となります。

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善のポイント

学習指導要領（平成29年告示）改訂のポイントの一つは、「**主体的・対話的で深い学びの実現**」に向けた授業改善です。「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日 中央教育審議会）では、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようにするために、子供たちが『どのように学ぶか』という学びの質を重視した改善を図っていくこと」が重要であり、学びの質を上げていくためには、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて授業を改善していくことが大切であることが示されています。そして、児童・生徒が「主体的に、対話的に、深く学んでいくことで、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解したり、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができる」と示されています。



（平成29年度 小・中学校新教育課程説明会（中央説明会）における文部科学省説明資料より）

そこで、「授業改善や学習指導に関わる先進情報等の通信『スクラム』」では、本号よりシリーズ企画として、『**主体的・対話的で深い学びの実現**』に向けた授業改善のポイントを教科ごとに掲載してまいります。

令和元年7月4日（木）に東京都教育委員会が実施した「平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の特徴的な問題を取り上げながら、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善のポイントを示します。本号では「国語編」、第82号（10月発行予定）では「算数・数学編」と「理科編」、第83号（12月発行予定）では「社会編」と「外国語編」を掲載します。ぜひ、御活用いただき、これからの授業改善にお役立てください。

大問概要

さわ子さんの学年では、体験活動で、バンダナの草木ぞめに取り組みました。そして、教えていただいた山本さんへのお礼の手紙を書くことになりました。さわ子さんは、書く内容をメモに整理して、下書きを書きました。

設問（1）「自分の考えが明確になるように、文章の構成を考えることができるかどうか」を問う問題

設問（2）「文や文章の中で、語と語や文と文との続き方を考えて書くことができるかどうか」を問う問題

設問（3）「手紙の後付けの書き方を理解して書くことができているかどうか」を問う問題

【さわ子さんのメモ】

- 分かったこと
 - ・ 葉やくき、根、実などを使う。
 - ・ 植物によってそまる色がちがう。
- 山本さんの話で印象に残ったこと
 - ・ 草木ぞめは自然が生み出すものである。
 - ・ 草木ぞめを伝えることは自然のゆたかさを守ることにつながる。
 - ・ 交流は十五年目。学校の伝統になった。
- 活用について
 - ・ 遠足や運動会でバンダナを使う。
- 山本さんへのお礼



【お礼の手紙の下書き】

たなばたかざりが風にゆれるきせつになりました。お元気ですか。先日は、草木ぞめを教えてください、ありがとうございました。わたしは、草木ぞめは緑色か茶色になるものだと思っていました。① 緑色の葉を使ったのに、ピンク色にそまったのがふしぎでした。うれしかったです。② わたしの作品もようが大きな花のようにきれいに作ったバンダナは、遠足で首にまいて使いました。これからも大切に③ 使います。秋の運動会では、ダンスをする時に学年みんなで身に付ける予定です。④ 教えてください。自然が生み出したものを楽しみながら、自然のゆたかさを守っていきたくと思います。⑤ これからです。きびしい暑さとなります。どうぞお体を大切に⑥ なさってください。

後付け

教えてくださいました山本さんに、お礼の気持ちを伝えたいな…。



小学校国語科における授業改善のポイント

【ポイント①】 学習の目的や必然性を自覚できる言語活動の設定

児童の主体的な学びを実現するためには、児童が学習の目的や必然性を自覚しながら学習に臨むことができるようにすることが重要です。そのためには、当該単元で身に付けさせたい資質・能力を明確にし、児童の言語生活に即した言語活動を設定することが大切です。この問題のように、「草木ぞめを教えてくださいました山本さんへのお礼の手紙を書く。」という言語活動を設定することで、児童は書くことの目的意識や相手意識を明確にもち、目的や相手に応じて主体的に文章を工夫して書くことができるようになると考えられます。

【ポイント②】 目的を明確にした対話的な学びの充実

文章を書く指導においては、互いの書いた文章について、感想や意見を述べ合う対話的な学びを設定することが重要です。その際には、対話の視点を明確にするために書こうとしたことが適切に表現されているかを見付けることが大切です。【さわ子さんのメモ】にあるような、「分かったこと」、「山本さんの話で印象に残ったこと」、「活用について」等を共有することで、児童が書く目的を確認しながら感想や意見を伝え合うことができます。対話的な学びを充実させることで、児童自身の考えを広げたり深めたりすることが期待できます。

大問概要

佐藤さんの学級では、国語の授業で、自分が決めた課題について調べたことを同級生に説明する文章を書くことになりました。

- 設問(1)「目的や意図に応じて、集めた材料をもとに自分の考えをまとめることができるかどうか」を問う問題
- 設問(2)「図表やグラフなどを効果的に用いて、事実などを分かりやすく伝えることができるかどうか」を問う問題
- 設問(3)「書き手の目的と意図を理解して、根拠の明確さなどについて助言をすることができるかどうか」を問う問題

③ 佐藤さんは、「ワークシート」の〈メモ2〉、〈メモ3〉をもとに、次の【下書きの一部②】を書きました。この【下書きの一部②】を、調べたことを正確に伝える文章にするための助言として最も適切なものを、あとのアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

工 「日本のピクトグラムは、おもてなしの心から生まれたといえるのではないだろうか。」と佐藤さんの考えを書くのではなく、事実を伝えるために、〈メモ3〉にある作成した人の言葉を紹介したほうがよい。

ワークシート

1 課題
日本のピクトグラムは、どのように発展してきたのか。

2 調べたこと

1964年に作成されたとき	(メモ2) 1964年の東京オリンピックでピクトグラムがつけられたのは、海外の人が困らないよう、すぐに意味が分かるシンボルをつくるため。
(メモ1) 1964年の東京オリンピックで初めてつけられた。 →競技種目のピクトグラム…20種類 →施設のピクトグラム…39種類	(メモ3) 1964年に作成した人の言葉 ・「シンボルづくりはおもてなしの心だった。」 ・「次の五輪にも『おもてなし』の心を受け継いでほしい。」
1964年から2020年に向けて	(メモ5) 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、外国人観光客の増加 →外国人観光客にも分かりやすいピクトグラムが必要
(メモ4) 2002年、110種類のピクトグラムが日本の工業規格(国内規格)として初めて定められた。 →国際規格と異なっているものもあり、外国人観光客には不便	(メモ6) 国際規格と比較したアンケート調査の結果等を踏まえたピクトグラムの改正(2017年7月決定) →7種類の変更と15種類の追加

3 まとめ
A

中学校国語科における授業改善のポイント

【ポイント①】 学習の調整が必要となる言語活動の設定

この問題では、「自分が決めた課題について調べたことを同級生に説明する文章を書く」という言語活動を設定しています。このように文章を書く目的や相手を生徒が意識できる言語活動を設定することで、書き手の生徒は、読み手となる同級生のことを思い浮かべながら、「この言葉だと正確に伝わらないから、別の言葉に言い換えよう」などと試行錯誤しながら、よりよい文章を書くために自己の学習を調整することができます。授業では、このような自己の学習を調整する過程を適切に評価し、必要に応じた手だてを講じていくことが大切です。

【ポイント②】 視点を明確にした対話的な学習の充実

書くことの単元で、互いの文章を読んで助言などをし合う学習活動では、読み手が、書き手の目的と意図を理解し、単なる印象ではなく、具体的な記述を取り上げて助言などをすることが重要です。その際、この問題のように、「調べたことを正確に伝える文章にするための助言をしよう。」などと助言をする視点を明確に示したり、文章を書く目的等を改めて確認させたりした上で助言などをさせることが大切です。